

創立二十五周年記念論文集

發刊に當りて

昭和の聖代、年を閲すること茲に十有一年、今春五月五日を以て我が綠丘學園は齡四半世紀に達し、去る七月五日に其の祝賀式を舉行した。然るに今秋十月九日には、畏くも、聖上陛下の行幸を忝ふし、學園の光榮之に過ぎたるはなく、聖徳身に染みて難有、教育御獎勵の御思召に感泣し、全校の氣風頓に淳化せられ、教育の趣旨が急然として徹底した。そして各々その職分を守り、職責を全ふし、誓つて皇恩の萬分の一に報い奉らむことを期してゐる。此の二つの行事に際し、初代渡邊校長、二代伴校長が打揃つて來校せられ、學園愛撫の至情を吐露せられ、舊職員も或は遠路のところを參列せられ、或は祝詞を寄せられて共に喜を分たれた。又多數の同窓生も馳せ參じ、その家族迄も一體となつて歡喜し

又光榮を共にした。過去現在に、そして又將來に於ても、學園に繋がる此の一團が渾然融和し一大家族の如き情を懷いて、相携へ相助けて、各々の本務を通じて皇國に奉仕せんとせる團體精神、これを稱して吾人は綠丘精神といふ。此の精神の眞髓は「行」の一語に終る。行ずるとは知を行ふのである。「業其の物」となつて自己を空うするにある。

此の精神が發露するところに學園内外の各種の行動が生れて來る。或は學園に燃ゆる熾烈なる攻學心となり、或は卒業生の「商學討究」費醸出の美學となり、又或は「二十五周年記念學術研究基金」の設定となり、學園の活動が日に活潑となり、融合親和愈々密に、四半世紀の歴史を誇る記念事業の最高峰を行く此の記念論文集を發刊するに至つたことは欣快に堪へない次第である。此の一卷に收めたるところは決して本校の學的の生命、若くは其の活動の全面を代表するものではなく、諸般の事情によつて少範圍に極限せられたものであり、且又、こゝに集録するものが、一から十迄、悉く學界に多大なる貢獻をなすものと誇稱することは差控へ度いが、其の何れもが各教授の苦心の結晶であり、又各々の分野

に於て荆棘を開き、斯道研鑽の或る行程を進めたものと言ふことは許され得ると信ずる。

終に臨むで本論文集上梓に付献身的努力を惜まれなかつた本校教授諸氏に對し深甚なる謝意を表するものである。

昭和十一年十一月十八日

小樽高等商業學校長 苫 米 地 英 俊